

日本痛風・尿酸核酸学会 理事会議事録

開催日時：2024年1月24日（水）18：00～19：20

会 場：ZOOM 開催のため各自勤務先等

(1) 久留理事長が議長となり午後18時00分に開催を宣言した。

理事20名中 出席16名 委任状2名

本日の出席状況は上記の通りで、定款第31条に基づき本理事会は成立する事が宣言された。

出席者（敬称略）

（理事）久留 一郎、市田 公美、安西 尚彦、荻野 和秀、
加藤 雅彦、金子 希代子、四ノ宮 成祥、土橋 卓也、
寺井 千尋、箱田 雅之、細山田 真、益田 郁子、
森崎 隆幸、森崎 裕子、山内 高弘、山田 裕一

（監事）板倉 光夫、嶺尾 郁夫

（委任状）大山 博司、森脇 優司

（若手委員長）桑原 政成

(2) 続いて予め配布された議案資料に沿って以下の通り審議が行われた。

【第1号議案 2023年度決算・監査報告】細山田先生、板倉先生
細山田先生より配布された決算書に基づき2023年度決算内容の説明があった。貸借対照表の資産の部では資産合計が当年度1,456,111円減の63,027,342円。負債の部では負債合計が前年度より3,770,438円増の7,287,200円。正味財産合計は5,226,549円減の55,740,142円になったとの報告があった。正味財産増減計算書ではガイドライン印税が当年度4,345,486円減の364,168円、ガイドライン転載許諾料は当年度3,245,220円減の2,299,000円の収益となっている。今回対面にもどった第56回総会収入は当年度3,277,093円増の11,947,587円の収益だったが、結果的

に経常収益は当年度 4,539,023 円減の 20,647,002 円であった。経常費用は、受取寄付金を原資とする若手研究者支援事業で 1,179,282 円と当年度 496,452 円増であった。今回対面に戻った総会費用は 11,941,972 円と当年度 4,455,372 円増となっている。以上より計上費用は前年比 5,085,770 円増の 25,873,551 円となった。また財産目録では正味財産が 55,740,142 円となり貸借対照表と一致している。さらに税理士の先生からの確認報告書も得ているとの説明があった。その後、板倉監事より監査報告があり 2022 年 12 月 1 日から 2023 年 11 月 30 日までの業務執行状況並びに財産状況について監査を実施し、すべて適法であり各種計算書類は財産状況および事業年度の収支状況を正しく示しているものと認めますとの報告があった。久留理事長より正味財産が 5,000,000 円ほど減少したとのことだが、55,000,000 円ほど学会には財産があるということなので運営には特に問題がないと思っているとのことであった。

【第 2 号議案 2024 年度予算案】 細山田先生

経常収益で若手研究者支援事業の原資となる受取寄付金は今年度も 1,100,000 円として計上している。特別賛助会費および正会員費は前年度同様に 4,600,000 円と計上している。経常費用は家賃が減額、またガイドラインの作成が始まるのでガイドライン費の増額、その他は前年度予算とほぼ同程度となっている。租税公課は 2023 年度の事業収入に対して計算された 840,000 円を計上している。第 57 回学会総会収入および費用は収入が 10,030,000 円、費用が 10,200,000 円と試算している。以上より 2024 年度経常収益合計は 19,390,000 円、経常費用合計は 21,890,000 円となり増減額として、2,500,000 円減ということで見込んでいるとの説明があった。議長が議案 1, 2 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第 3 号議案 第 59 回総会（2026 年開催） 会長選出】 久留理事長

久留理事長より第 59 回（2026 年開催）学会総会の会長候補者として福井大学血液・腫瘍内科教授山内高弘先生を推挙することが提案され、議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。山内先生より「大変光栄な機会を賜りましてありがとうございます。諸先輩、諸先生がたのご教示もいただきながら頑張らせていただきます。今後ともご指導の程よろしく願いいたします。」とのことであった。

【第 4 号議案ガイドライン改訂委員長の決定】 久留理事長

高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第4版の改訂がスタートするにあたり、委員長として、山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座教授今田 恒夫 先生が候補者として推挙されているとのことであった。これにつき議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第5号議案 2023年度学会賞受賞者決定報告】久留理事長

2023年度学会賞は、山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座教授である今田恒夫先生に決定したことが久留理事長より報告された。

【第6号議案 2023年度若手研究者支援事業 若手研究者賞・若手研究助成決定報告】久留理事長

若手研究者賞は大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学講師 藏城雅文先生に決定した。また若手研究助成については、東京大学医学部附属病院薬剤部 届出研究員 豊田優先生、佐賀大学医学部循環器内科 特任教授 田中敦史先生、千葉大学大学院看護学研究院健康増進看護学講座 教授 大内基司先生、国際医療福祉大学薬学部薬学科 助教/東京薬科大学病態生理学教室 大橋勇紀先生の4名の先生に決定したとの報告があった。

【第7号議案 第57回総会優秀演題賞候補演題決定報告】荻野先生

荻野先生より優秀演題賞候補について、プログラム委員会を中心とした審査の結果、臨床部門2演題、基礎部門2演題、メディカルスタッフ部門1演題を選出した。総会において実際の発表をみて最優秀演題賞と優秀演題賞を決定する予定であるとのことであった。

【第8号議案 2023年度優秀論文賞受賞者決定】市田先生

編集委員会で審査をした結果、最優秀論文賞に該当する方はいなかった。優秀論文賞に東北大学の小川亜希子先生の「COVID-19 ワクチン接種後のRNA 修飾代謝物排泄の変動」、山形大学の鈴木奈都子先生の「地域住民における血清尿酸値と食品群別摂取量の関連について：山形県コホート研究」、両国東口クリニックの藤森新先生の「新型コロナウイルスワクチン接種と痛風発作（痛風専門医療機関でのアンケート調査）、の3編を推薦したいとのことであった。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第9号議案 編集委員会報告】市田先生

2023 年度 J-Stage アクセス数は月平均 25,414 アクセスで、昨年と比較してもほぼ横ばいである。2023 年度学会誌の掲載論文数は、総説 5 編、原著 9 編、計 14 編であり、ここ数年このくらいの数字で掲載できているので順調だと思う。バックグラウンドとしては学会総会で発表された演題から推薦演題を選び、論文化に持っていくという流れが確立されてきていることがある。また推薦演題として、原著としての投稿のみならず、総説としての投稿も入れるようにしたことがあり、これだけの論文掲載数を確保できている。投稿規定については、著者、査読者の両面から様々な意見をいただいております、プレプリントの可否の問い合わせや、物質の構造式の明記など対応事項が出てきたため、これを機に全体的な見直しを行っている。また審議事項として「痛風と尿酸・核酸」優秀論文賞選考内規の変更で総会での授賞式にて賞状や副賞を総会長から授与することになっているが、これを論文の採点や選考に大きく関わっている編集委員長から授与するをしたい。また現在副賞として最優秀論文賞に 20 万円、優秀論文賞に 10 万円贈呈していたが、学会賞が 10 万円なのに対してバランスが取れないとの意見があり、今後の投稿受付分からは、最優秀論文賞に 10 万円、優秀論文賞に 5 万円としたいとのことであった。議長が審議を諮ったところ出席者全員の賛同を得て承認された。

【第 10 号議案 認定痛風医資格制度委員会報告、COI 委員会報告】谷口先生（動画報告より）

昨年 3 月 25 日～4 月 24 日にオンデマンド形式で教育研修会を行い 38 名の参加者があった。益田先生、福内先生、（谷口先生）にご講演いただいた。認定痛風医試験については申込者がなく実施しなかった。認定痛風医新規申請 2 名、更新書類審査 10 名について委員で審査をしたところ当委員会としては資格を満たしているということを確認している。議長が審議を諮ったところ出席者全員の賛同を得て承認された。今年の 3 月 25 日～4 月 24 日にかけて教育研修会を予定しており桑原先生、蔵城先生、今田先生にご講演をお願いし、ご快諾いただいている。会計報告については収入が 252,000 円、支出が 78,760 円であったとの報告があった。利益相反委員会からは報告なし。

【第 11 号議案 ガイドライン広報委員会報告 中国語翻訳版の進捗状況を含む】市田先生

ガイドライン中国版が 2023 年 9 月に天津科技翻訳出版公司から出版された。天津科技翻訳出版公司の HP からたどりつける。金額は 68 円でネット

書店の京東 mall で購入可能（登録が必要）。教室に中国の先生などいらっしやったら広報してほしい。2022 年度前払い印税として 3,000 部を超えた分は契約に従ってロイヤリティが発生し、当学会が受け取れる前払い印税として 112,504 円はすでに入金があった。ただしその前に翻訳者に対して 800,000 円をお渡ししているので、マイナス 700,000 円からのスタートであるが、何とかマイナス分減らし、可能であればプラスにしたい。中国語版の販売促進の方法については、エーザイがドチヌラドを販売することになり久留先生がその講演会の演者になったので、その講演会で宣伝していただくこと、またこの講演会を通してエーザイの方を紹介してもらったので、その方を通じてエーザイが中国でプロモーションをするときにぜひ中国語版を使っていただくこと、学会員全体にメールマガジンを使って中国語版が出たことをアナウンスして、学会員全体の方で中国の先生で知り合いがいたらアナウンスしていただくこととなった。さらに評議員の中に台湾や中国の先生がいるので、その先生にも販売促進のお手伝いをお願いできればというふうに思っている。ネットで「中国 痛風 ガイドライン」で検索をかけたところ 2019 年に中国で痛風のガイドラインが出版されているようだということがわかった。久留先生にお願いしてエーザイの方にそのような情報がないか集めたところ、本日回答があり、中国の内科の内分泌分野で 2019 年にそういった発信をしているようだということが分かった。しかし全体の概要はまだ分からないので今後さらに情報収集を行う予定である。

【第 12 号議案 ダイバーシティ推進委員会報告】金子先生

年に 2 回委員会活動を行っている。昨年年第 1 回委員会の内容は第 56 回学会総会前の打合せで、ニーズ調査アンケートの実施方法や、託児室の希望がどのくらいあるか、シンポジウムの状況、総会出席により取得できる単位認定が増えたことなどが確認された。また 3 名の委員の追加を理事会に諮るということを進めてきた。第 2 回委員会では新委員の 3 名の先生（嶋田英敬先生、横関美枝子先生、高柳ふくえ先生）を交えて、昨年年第 56 回総会の振り返りを行った。ニーズ調査アンケート（結果は会員ホームページに掲載）では、会員 49 名、非会員 23 名 計 72 名（会員：約半数が 11 回以上、非会員：67%が初めて）から回答を得た。会員には特別講演、多職種連携シンポジウムが好評で、非会員にはランチョンセミナーが好評であった。開催形式はハイブリッド形式の希望の声が多かった（55-60%）。現地参加が難しいという回答の理由としては介護や育児、勤務体制（土日開催やオンライン希望）などがあった。また費

用の関係で参加が難しいとの意見もあり継続参加の方に参加費の減額や学会から補助があるとありがたいといった意見もあった。今後の企画や要望で、海外の先生の講演を聞きたい、基礎と臨床の橋渡し、中高生向けのセミナー、多職種シンポジウムの継続、ハンズオンセミナーの実施、食事療法・運動療法についての実演などが意見として出た。これに関しては次回、次々回総会の会長にすでに伝えている状況。海外の研究の講演をオンラインで聞きたいという要望に対しては第57回総会会長の荻野先生に実現していただいている。前回の総会で初めて託児室を設けた。初めての試みでアルファコーポレーションにお願いし、三橋さん、中山先生、プロコムとの協力で1日目には3名、2日目には1名のお子様の申し込みがあった。かなり広い場所で、託児に慣れた保育士2～3名が来てくれて非常に良い感じに運営されていた。現在第57回総会ではまだ申し込みはないが受け付け中である。先日今年度の第1回の委員会を行った。第57回総会もニーズ調査アンケートを実施する、第58回総会でのシンポジウムは「働き方改革」をテーマとして取り上げることが確認された。また審議事項として、男女共同参画学会協会連絡会に入ったときはオブザーバー会員だったが、規約で3年続けると正式加盟となる。分担金もオブザーバー会員のころと変わらず1万円で、さらに学会の裾野を広げるためにも、正式加盟会員として継続したい。それにより託児室の情報や講演会の演者の相談もできるとのことであった。議長が審議を諮ったところ出席者全員の賛同を得て承認された。

【第13号議案 若手委員会報告】 桑原先生

現在メンバーが増えて委員17名で活動している。次回から慈恵医科大学循環器内科 田中祥朗先生、大阪大学大学院 内分泌・代謝内科学 川知祐介先生の2名がオブザーバーとして参加を予定している。2か月に1回程度委員会を開催しており、それ以外はメール審議で会議を行っている状況である。2023年度の活動としては、1月に今年度の目標、3月にシンポジウム・論文レビュー担当についての議論、5月7月9月11月は新しく入った先生方に研究発表をしていただいた、さらに今年の総会のシンポジウムでの分担や、そのシンポジウムの内容について各先生にレビューを論文化していただき、それをまとめて投稿し、Biomolecules にアクセプトされ出版されたという状況。関連学会におけるジョイントシンポジウムの企画・提案としては、昨年3月に行われた日本循環器学会学術集会でジョイントシンポジウムを会長企画のシンポジウムとして実施することができた。座長を久留先生、土橋先生にさせていただき、金子先生、(桑原先生)、

荻野先生、阿部先生に発表をしていただいた。会場は立ち見も出るほど大盛況で尿酸の大切さを循環器の先生方にわかっていただいたと思う。また12月に第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会で共催ミニシンポジウムを行った。田中先生、大谷先生が座長で若手委員会から宮田先生、明石先生、丸橋先生、藏城先生の4名の先生が演者として発表した。こちらも盛況であったと報告を受けている。若手委員会中心に作成したレビュー論文を *Biomolecules* に掲載している。総会のシンポジウムで発表する予定で、リプリントを配布できればと思っている。総会の2日目の朝に、会場にて若手委員会を開催予定であり、どのような活動を行っているのか自由に見学してもらおうと思っている。若手委員の先生方にアンケートを実施しており、その結果は添付資料としている。次年度の目標については、昨年までの内容と合わせて記載しているが、次回の会議でさらに検討を行いたい。久留理事長より若手委員会は非常に活発に活動しており頼もしいとのことであった。

【第14号議案 学術交流委員会報告】山内先生

関連学会の先生方とともに学会の発展や交流を目指し作られた委員会である。現在まで3回の委員会が開かれており、それぞれの委員の先生方の現在までの関連学会とのジョイントの状況につき説明があった。日本血液学会は尿酸との関係が少し薄いので難しいが、2026年日本臨床薬理学会総会の会長に任命されたので、そこで痛風・尿酸のセッションを作れないか検討している。新しく委員になられた阿部先生には、日本肺高血圧・肺循環学会のプログラム委員会にて検討していただいている。藏城先生には昨年すでに日本医学会連合 TEAM 事業・日本肥満学会・日本肥満症治療学会 合同企画シンポジウム学術集会で発表。また第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会でも発表いただいている。桑原先生には日本循環器学会は規模が大きいので定期的な共催シンポジウムの開催は難しいかもしれないが、2025年3月の学術集会の教育セッションで尿酸の話題を入れてもらえるように検討をお願いしていただいている。柴田先生には日本腎臓学会で今後腎臓学会東部会や総会等での合同シンポジウムの提案をしていただいている。土橋先生には日本高血圧学会はもともと他学会とのシンポジウム枠が確保されているので、その1つを頂いて今後相互シンポジウムの定例化を目指していただいている。森崎先生には今後日本人類遺伝学会の理事会で検討していただいている。日本尿路結石学会、日本泌尿器科学会担当の山口先生には、なかなか「尿酸」というテーマが少し入りにくいかもしれないが、

尿酸につながるテーマで発表ができるか検討していただいている。山本先生には日本心不全学会で2025年に学術集会の会長をするのでそこで尿酸をテーマとしてセッションを設けられるか検討していただくとのことであった。久留理事長よりガイドラインの改訂には他学会からのリエゾン委員や臨床課題が必要で、この委員会は極めて重要なので今後ともご尽力の程よろしく願いますとのことであった。

【第15号議案 ありかた委員会報告】久留理事長

1. ガイドライン第4版改訂委員会発足について

高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン改訂第4版の委員長について山形大学の今田恒夫先生に決まった。今後は今田先生の主導のもと主要な委員会が発足していく。2022年にMindsからガイドライン作成方法の変更があり新しいバージョンになった。これまでは医師・患者・家族のためのガイドラインだったが、新しいガイドラインでは一般市民を含めた、医療提供者、医療利用者の間のガイドラインになっている。従来のファイナンシャルなCOIに加えて、アカデミックCOIも含め利益相反を上手にコントロールしながら委員の先生を決めていく。そのあたりの整理を日本医療機能評価機構で静岡大学准教授の佐藤先生や京都大学教授中山先生と今田先生が連絡を取り合いながら、COIも含めた新しいガイドラインの作成をしてほしい。理事の先生方には統括委員会でご協力をいただくことになると思うのでよろしく願いますとのことであった。

2. キサンチン尿症のアンケートについて

藏城先生より学会に協力をいただきながらキサンチン尿症のアンケート調査を行いたいという依頼があった。目的は腎性ではない低尿酸血症患者（キサンチン尿症/モリブデンコファクター欠損症）における国内での病態について調べていくこと。臨床研究なので倫理審査が必要であるが当学会には倫理審査委員会がないので、藏城先生が所属している大阪公立大学で行い、研究（アンケート）については学会として協力していくことがありかた委員会で決まったとの報告があった。

3. 学会の倫理審査委員会について

ありかた委員会で今後学会に倫理審査委員会を設置するかどうかについて審議をした。構成要件として医学・医療の専門家、倫理学や法律の専門家、一般の立場の方、男女両性などが条件に入ってきており、学会と

してリクルートして倫理審査委員会を作ることは、なかなかハードルが高いのではないかという意見が出た。日本高血圧学会には倫理審査委員会があるそうだが、これは厚生労働省から日本高血圧学会に臨床研究をするようにというプロジェクトが投げかけられたために、倫理審査委員会を作ったと聞いた。久留理事長より事務作業も煩雑なので、1つの案として、この学会では研究者の所属する施設の倫理審査委員会を通すという形で、学会としてサポートするというのはどうかとの意見が出た。森崎隆幸先生より、学会で倫理審査委員会を作るとなると、ニーズがあることと、倫理審査委員会の体制が維持されることが重要、学会員の数が多くない現状では難しいのではないかとのことであった。久留理事長より基本的には研究者の施設で倫理審査委員会を通してもらい、その研究を学会としてサポートするという形がいいのではないかということであった。今後のありかた委員会での継続審議にしていくとのことであった。

4. 生活習慣病関連9臨床団体に関して

生活習慣病関連9臨床団体という団体がある。本団体は、日本糖尿病学会、日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、日本腎臓学会、日本医療情報学会、日本臨床検査医学会の6学会が中心となり、2021年に日本肥満学会、日本糖尿病協会が加入、2022年に日本糖尿病眼学会が加入し9団体となっている。臨床研究を行うにあたり、色々なパラメーターが入ってくるが、「尿酸」が重要項目に入っていない。今後大型の臨床研究をするにあたって、「尿酸」が測定されていないデータがあると、研究するのに支障が出てくるのではないかという見解があり、できればこの団体に加盟できるようなロビー活動（理事や名誉会員の先生方、会員の先生方でこの団体（加盟者）についてご存じの方がいれば、パーソナルコミュニケーションで当学会も加入できないだろうかと打診をしていただく）を行っていきたいとの提案があった。他の学会のガイドラインでも尿酸の扱い方が徐々に落ちてきているということもあるのでこのロビー活動について審議してほしいとのことであった。議長が審議を諮ったところ出席者全員の賛同を得て承認された。

【第16号議案 庶務幹事報告】細山田先生

学会のHPのアクセス数は月平均2,500アクセスとなっており前年度の2/3に減っている、昨年はJ-Stageの1/7であったが、今年は1/10であった。会員数540名で前年度に比べて9名減少。会費未納者は74名とな

っているとの報告があった。

【第17号議案-1 役員改選】久留理事長

(i) 理事の改選

任期満了による退任3名 寺井千尋理事、森脇優司理事、山田裕一理事
新規選任3名 高田龍平評議員、仲川孝彦評議員、松尾洋孝評議員

(ii) 評議員の改選

任期満了による退任4名 栗山哲評議員、高橋澄夫評議員、長瀬満夫評議員
嶺尾郁夫評議員

本人からの辞退4名 石坂信和評議員、市川奈緒美評議員、岩崎博道評議員
玉井郁巳評議員

新規選任6名 有馬久富先生、岡田随象先生、小島淳先生、
菅野直希先生、山本康孝先生、横尾隆先生

(iii) 監事の改選

任期満了による退任2名 板倉光夫監事、笹田昌孝監事
新規選任1名 内田俊也先生

(IV) 名誉会員の承認

寺井千尋理事、嶺尾郁夫評議員（監事）、森脇優司理事、山田裕一理事

(V) 編集委員長の改選

新規選任1名 山内高弘先生

(V) 編集委員長の改選

新規選任1名 森田美穂子先生

議長が改選案の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同により承認された。

【第18号議案 その他】久留理事長

特になし。

【第19号議案 第57回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】荻野先生
会期は2024.2/29-3/1で場所は鳥取市のとりぎん文化会館で開催します。
本日は雪が積もっていますが、1か月後はそのようにならないよう願
っております。皆様どうぞよろしく願いますとのことであった。

以上で理事会の審議はすべて終了し、議長は19時20分に閉会を宣言し
た。

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び監事が記名捺印する。

2024年3月11日

理事長 久留 一郎

監 事 板倉 光夫